

国際化学肥料ニュース（2016年10月）

肥料業界の2016年10月動態

- * インド MMTC 社が9月22日に行った150万トンの尿素入札では、計25社、280万トンの応札があった。最終的に決定された購入数量は CFR204 ドル/トンまでの97万トンであった。その内訳はイラン産尿素約50万トン、中国産尿素31万トン、残りは中東産である。
- * インドの尿素入札結果を受け、10月の尿素 FOB 価格が3~4ドル/トン値上げされた。現在、イラン産尿素的の価格が国際価格の基準となっている模様。
- * DAP の国際価格が低迷している。最大の輸入国インドが在庫と政府補助金の問題で、りん安の輸入が停滞している。10月上旬パキスタンが中国から輸入された DAP の FOB 価格が305ドル/トンで、今年最安値を記録した。11月以降は FOB300 ドル/トンまで低下する可能性がある。サウジアラビア産 DAP は伝統のインド市場のほか、イラン、バングラディッシュとアフリカ市場の開拓に力を入れている。需要旺盛な南米では、中国、アメリカ、モロッコ、メキシコ産りん安が激しく競争して、9月末現在の CFR 価格がブラジル 350~355 ドル/トン、アルゼンチン 360 ドル/トンである。11月にさらに10ドル/トン値下げされる。
- * 塩化加里の国際価格が安定しているが、10月以降若干の値下げ可能性がある。ブラジル、中国など農業大国の加里肥料需要量が減少しているためである。9月末現在、普通粉状塩化加里 CFR 価格は東南アジア 230~260 ドル/トン、ブラジル 230~235 ドル/トン、粒状塩化加里 CFR 価格はブラジル 235~240 ドル/トンである。
- * 中国税関の最新統計データによれば、2016年1~9月の中国肥料輸出量が昨年同期より22.1%減の1939万トン、輸出金額が39.9%減の47.72億ドル。その内訳は、尿素輸出量が15.75%減の678.3万トン、DAP 輸出量が28.86%減の359.3万トン、輸出量が激減した理由は国際市場の需要不振と中国化学肥料の低品質、輸出価格の競争力が衰えたことである。イラン産尿素に比べ、中国尿素的の FOB 価格が常に15~20ドル/トン高く、2016年9月までインドが行った計4回の尿素入札にすべてイラン産尿素に負けた。
一方、1~9月中国が計557万トン肥料を輸入した。昨年同期より25.1%減、主な輸入品目は塩化加里である。輸入金額も34.7%減の17.40億ドルである。

- * 中国窒素肥料工業協会の統計データによれば、今年1～8月窒素肥料生産量と輸出量が初めてマイナス成長に陥った。1～8月のアンモニア生産量が3.5%減の4264.1万トン、窒素肥料生産量(N100%換算)が2.8%減の3098.6万トン、尿素実生産量が1.5%減の4704.5万トン、窒素肥料輸出量(N100%換算)が19.5%減の500.8万トン、尿素実輸出量が20.6%減の678.3万トン。

それに伴い、1～8月中国の窒素肥料総売上高が14.7%減の1478.6億人民元(約220.69億ドル)、窒素肥料メーカー283社のうち51.9%の147社が赤字となった。業界全体の赤字総額14.1億人民元(約2.1億ドル)であった。

- * 中国りん酸肥料と化成肥料工業協会のデータによれば、今年1～8月りん酸系肥料生産量(P2O5換算、以下同)が9.5%減の1099.5万トン、その内りん安、重過りん酸石灰など高濃度りん酸系肥料生産量が8.0%減の1017.2万トン、過りん酸石灰や熔りんのような低濃度りん酸系肥料生産量が29.6%減の81.4万トン。DAP実生産量が8.4%減の1071.7万トン。生産量減少の原因は国内需要不振と輸出不振である。1～8月中国国内りん酸系肥料消費量が4.0%減の855.7万トン、輸出量が23.0%減の263.8万トン。

- * 中国無機塩工業協会加里肥料分会の統計データによれば、1～8月国内加里肥料生産量(K2O換算)が5.41%増の402.61万トン、塩化加里輸入量が30.8%減の388.1万トン、硫酸加里輸入量が53.4%増の4.3万トン、塩化加里輸出量が11.9%減の17.1万トン、硫酸加里輸出量が74.4%減の1.76万トン。

- * 中国化学肥料の生産量が下がり続けている。中国国家統計局の最新データによれば、9月の化学肥料生産量が前年同期より6.3%減の611.52万トン(100%純度換算、以下同)。その内訳は、窒素肥料が11.3%減の379.63万トン、りん酸系肥料が4月から初めて増加し、4.68%増の164.21万トン、加里肥料が6.05%増の65.31万トンと増加し続けている。なお、1～9月の化学肥料生産量が1.9%減の5529.51万トン。

- * モロッコのリん酸肥料の輸出が順調である。世界のリん酸肥料の需要不振をものにせず、生産コストの優勢と品質の良さでりん安輸出量を大幅に増加した。GTISのデータによれば、1～8月のDAP輸出量が前年同期より39%増の116万トン、MAPも44%増の140万トンに達した。

もう一つの変化はりん安最大輸入国インドに対してりん安を直接輸出することになった。今まではインドに粗りん酸を輸出して、インド国内にりん安を生産するが、今年からDAPを直接にインドに輸出するようになった。8月輸出したDAP16.2万トンのうち、インド向けが5.4万トンを占め、最大の輸出先となった。その泡を食ったのは中国

である。今年中国からインドへの DAP 輸出量が急減し、DAP 国際価格の下落の一因となった。

大手各社の営業業績

- * ノルウェーYara 社の第 3 四半期業績を発表した。生産量が増えたものの販売価格の下落で売上高、粗利と純利益が大幅減少した。売上高が昨年同期より 21.5%減の 28.95 億ドル、減価償却前営業利益 (EBITDA) が 62%減の 3.6 億ドル、純利益が 79.5%減の 9930 万ドルしかなかった。7~9 月のアンモニア生産量 168 万トン、尿素生産量 117 万トン、硝酸系肥料生産量 147 万トン、化成肥料生産量 112 万トンであった。化成肥料を除き、すべてが昨年同期より増加したが、販売価格の急落で、業績が振るわなかった。
- * サウジアラビアの Maaden 社は第 3 四半期の業績を公表した。業績が好調で、アンモニア生産量が 23%増の 31.2 万トン、りん安生産量が 3%増の 70.8 万トン、販売量も 7%増の 67.2 万トン。純利益が 4.6%増の 2230 万ドル。
- * 中国の肥料産業全体が赤字に陥った。上場している 24 社の 1~9 月は赤字 15309.35 万人民币元 (約 2285 万ドル) を計上した。窒素肥料の上場企業 14 社のうち 11 社が赤字、業界全体の赤字額 14.38 億人民币元 (約 2.15 億ドル)、りん酸系肥料の上場企業 3 社のうち 2 社が赤字、業界全体の赤字額 16.03 億人民币元 (約 2.39 億ドル)、加里肥料の上場 3 社が黒字を維持しているが、利益が 52.01%減少した。化成肥料が業績を維持し、上場企業 6 社の純利益が 4.47%減の 27.5 億人民币元 (約 4.1 億ドル)。業績低迷の原因は国内需要不足と輸出不振で、化学肥料価格が下がり続け、2000 年以來の最低価格となっている。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * ロシアの EuroChem 社は 2020 年までに化学肥料生産規模拡大に 40 億ドル以上を投資する計画を発表した。主な内容は加里鉍山の開発に 29 億ドル、Kingisepp アンモニア工場建設に 6.8 億ドル、Nevinnomyssky Azot 工場の硝酸と硝酸加里生産ライン新設に 3.6 億ドル、りん鉍山開発に 0.88 億ドルなどである。

その他

- * 10 月 17 日上海に開催された「2016 年中国国際化学肥料フォーラム」に於いて、中国政府担当者は中国化学肥料の過剰生産能力を解消し、輸出を促進するために 2017 年の化学肥料輸出関税を良い方向に改正すると発言した。

今年 7 月以降、中国窒素肥料工業協会と中国りん酸肥料・化成肥料工業協会は中国政府に対して化学肥料の輸出関税を撤廃するように強く要請した。噂によれば、来年から加里肥料を除き、他の化学肥料の輸出関税を撤廃することはほぼ確実となっている。

- * アメリカ合衆国アルコール・タバコ・火器及び爆発物取締局（ATF）が 10 月 11 日に発表した調査結果によれば、2013 年 4 月 17 日テキサス州 Waco 市の化学肥料工場に発生した爆発事故は人為的な放火による悪質な事件である。ATF の事件調査主管 Rob Eider 氏は 400 回を超えた面談、現場調査、目撃者供述、現場写真と録画および科学的分析と検査を経て悪質な放火事件と結論されたと述べた。

2013 年 4 月 17 日夜 8 時頃、テキサス州 Waco 市にある West Fertilizer 社の化学肥料工場で硝安の爆発事故が発生した。死亡者が 12 名、負傷者が 160 名以上、周辺民家 500 軒以上が被害を受けた。被害総額 1 億ドル超。ATF が事件調査にすでに 200 万ドル以上の経費を投じ、有力な情報に最大 5 万ドルの懸賞金を提供するなど努力したが、犯人を逮捕に至っていなかった。

- * ブラジル Vare 社は所有の肥料事業をアメリカ Mosaic 社に売却する計画に大株主のブラジル国家開発銀行（BNDES）が反対を表明した。そのため、特別株主総会の開催が延期となる。ただし、売却は予定通りに行う見込みで、Mosaic 社は 30 億ドルで Vare 社の国内外肥料事業を買収するほか、ノルウェーの Yara 社が 6 億ドルで Vare 社がサンパウロ州 Cubatao 市にある 4 つの化学肥料工場を買収する。

- * プライベートエクイティの Abraaj Group はオランダの石油化工会社からアフリカの尿素メーカー Indorama 社株式の一部を取得した。Indorama 社はアフリカ大陸南部最大の尿素メーカーで、ナイジェリアに年間生産能力 140 万トンの尿素工場を有する。Abraaj Group は過去 21 年間アフリカに積極的に投資して、アフリカの経済発展に貢献してきた経緯がある。

- * チリの SQM 社は 2000 万ドルを投じてオーストラリア Elemental Minerals 社から 17% の株式を取得した。主な目的は Elemental Minerals 社のアフリカコンゴ人民共和国に所有する加里資源です。SQM 社はコンゴ共和国の加里資源を精査する上、開発に参入するか否かを決めると述べた。

- * 10 月 25 日、アメリカ商務省は中国産硝安に不当輸出補助金を受けていると認定した。調査の結果、中国から輸出された硝安は中国政府からの補助金が 206.75% に達し、不当補助行為に当たる。アメリカ商務省はこの認定をもって、アメリカ税関に中国から輸入される硝安に対して補助金相殺関税に相当する保証金を徴収するように通知する。

テキサス州の PCI 窒素肥料社等からの申請に基づいて、アメリカ商務省と国際貿易委員会が今年 6 月から中国産硫酸に対して不正廉売と不当補助金の調査を始めた。アメリカ商務省が 2017 年 1 月、アメリカ国際貿易委員会が 2 月に最終調査結果を発表し、不正廉売と不当補助金の有無をそれぞれ最終的に裁定する。認定される場合は、中国産硫酸に対してアンチダンピング関税と補助金相殺関税を徴収する。

- * 10 月 26 日の中国報道によれば、中国山東省青島輸入輸出商品検査局は日本から輸入された土壌改良材に対して品質不良と判定し、輸入・輸出業者の協議により輸入せず、全量日本へ返送された。

当該土壌改良材は粘土系のもので、総重量 940 トン、金額 10.8 万ドル、6 回に分けて中国山東省青島港に輸入されたという。検査の結果、N、P、K 含有量が不足で、包装袋から粉塵を漏れる恐れがあり、包装袋には中国法令に規定された中国語の標識を表示されていないなどをもって、品質不良と判定された。